

資料 6	連続自動入力プログラムによる不正ログイン攻撃の観測結果について	平成24年4月25日
------	---------------------------------	------------

1 実態観測の目的

不正アクセス行為の防止対策について検討するため、平成23年9月からインターネット企業14社に対しヒアリングを実施したところ、うち8社が平成23年中に「連続自動入力プログラムによる不正ログイン攻撃」を受けており、各企業の1か月分相当のデータの試算によると、合計で約265万回に及ぶログイン試行（そのうちの不正アクセス数は約9万8千回）が行われているという実態が判明した。

しかし、上記8社の記録では攻撃を観測した時期が各社で異なっていることから、「連続自動入力プログラムによる不正ログイン攻撃」の実態を一定期間の実数ベースで把握するため、観測協力企業の分野と数を増やすとともに、本年2月を対象に観測を行った。

2 協力企業

インターネット企業（インターネットショッピング、コミュニティサイト、オンラインゲーム、金融の各分野）13社の協力を得て観測を実施した。

3 観測結果

観測結果は次のとおりであった。

協力企業数	のべログイン試行回数	のべ不正アクセス回数	侵入率
13社	260,896回	17,514回	6.7%

「ログイン試行回数」は、同一のIPアドレスから短時間の間に多数のID・パスワードを入力された等の基準により、各企業が連続自動入力プログラムによる不正ログイン攻撃であると独自に認めたもので、「不正アクセス回数」には正規利用権者が行った正当なログインが、ごく一部含まれている可能性がある。

4 今後の対策

今後以下の対策を推進する。

不正アクセス行為についてインターネット企業等から警察への通報の促進

ID、パスワードの使い回しの危険性について一般国民への広報啓発
 新たな認証技術の推奨も含め、「不正アクセス防止対策に関する官民意見集約委員会」におけるアクセス制御機能の高度化方策の検討